



お熱がでたのでお迎えに来てください！

保育所で子どもが熱を出した！

保育士さんは気兼ねをしながらその子の保護者に連絡をし、連絡を受けた保護者は不安と混乱の中で職場の人に気を使いながらこの後の対応を考える、そんな光景が保育現場では日々繰り返されています。抵抗力の弱い乳幼児が集団生活をすれば風邪をひくのは当然として、それを温かく受け入れてくれる社会であってほしいと願います。

では、**保護者に連絡する発熱の基準を何℃にするか？**多くの保育所では37.5℃以上としていますが、私見ではありますが、**38.0℃以上でいいのではないか**と思います。37.5℃～37.9℃の場合は、活気がない、機嫌が悪いなど普段と様子が違う時に限り連絡するようにしてはどうでしょうか。平熱が高いお子さんは一定数います。それらの保護者への負担を軽減することにもなります。

周知のこととは思いますが、体温測定の基本的事項について述べておきます。

熱があるかどうかは脇用体温計で測ります。最初に正しい測り方ができているかどうか(脇の窪みの中央に30度の角度で挟む)を確認してください。平熱は1日のうちでも1℃～1.5℃変動します。寝ている時が最も低く、起床後に徐々に上昇します。食事や入浴、運動後は体温が上がりますので30分以上あけて検温してください。

アデノウイルス感染症について

保育所、幼稚園でアデノウイルス感染症が流行っています。アデノウイルスには50種類以上の型があるため何度でもかかります。呼吸器、目、消化器、泌尿器などに感染を起こし、感染する場所によって病名が異なりますので、注意してください。

〈呼吸器〉咽頭炎、扁桃炎

〈目〉流行性角結膜炎(はやり目)

〈呼吸器&目〉咽頭結膜熱(プール熱)

〈消化器〉感染性胃腸炎

〈泌尿器〉出血性膀胱炎

流行性角結膜炎(はやり目)と咽頭結膜熱(プール熱)は、それぞれ学校感染症第3種、第2種に指定されており、出席停止期間が決まっています。



11月の感染症情報

インフルエンザの1週間あたりの定点報告者数は11月初めの35人をピークに、その後は15～20人程度で推移しています。すべてA型です。新型コロナの発生は少なく、定点報告者数は1～2人程度の発生です。

小児では咽頭結膜熱と感染性胃腸炎が流行しました。とくにアデノウイルス感染症による咽頭結膜熱と咽頭炎の発生が目立ちました。



11月の利用状況

11月の利用延べ人数は127名、1日平均利用人数は6.4人でした。年齢別では1歳児が33人で最も多く、次いで2歳児と4歳児の23人でした。疾患別では急性上気道炎が52人で最も多く、次いでアデノウイルス感染症とインフルエンザがそれぞれ23人でした。11月も10月と同様、この3疾患で占められた印象があります。

インフルエンザの流行は爆発的ではないものの、小規模な流行が続いています。アデノウイルスによる咽頭炎では発熱が平均4～5日続くことから、入室期間が長くなる傾向があります。そのため新規のお子さんの入室をお断りせざるを得ないことがありました。